

【第8章】

エコ・ライフサイエンス研究会 大きな物語

“生命圏の実態”の解明と社会への提案

『生きもの』全体を射程に入れた
生命圏の正しい発展に貢献する「活動」を目差して

「ワン・ヘルス ― ワン・ワールドの構築に向けて」スタートアップ活動計画

本研究会の基盤となる喫緊の命題とは何か

世界的なコロナ・ウイルスの
パンデミックは「変異株」の出現による
ウイルス特有の進化を武器とした
エマージングである。

生命圏の危機を直視し、
「生きもの」全体の正しい共生を目差して
人類・国民が熟議し、対応策を考えて行く
プラットフォームを創ることである。

「生きもの」
全体を捉える
新しい『生命科学』の確立

このエマージングを
社会に広く受容される方法で
解消することが本研究会の
最重要命題である。

自分たちの問題は自分たちで対処する
自立の精神が要請されている。
国民一人一人がお互いの考え方を理解出来る
能力を高めることである。

【目的〔命題〕】

生命圏としての「ガイア」の〔生きもの〕全体の生態学的実態の(段階的)解明
と健全な生命圏の構築と育成支援

【初期目標】

ウイルス感染の初期発生を未然に防ぐ環境の構築と育成支援



ウイルスがどんな状態の時に感染を引き起こすのか認知すること



- ① ウイルスによる「感染開始」の信号(言葉)を確認して、その信号の意味を感受し、直ちに対応する「仕組み作り」が必要
- ② ウイルスとの情報交換と対話の『場』を創ることが必要

生物種ごとの「言語ゲーム」=「ゲーム理論」を活用すること

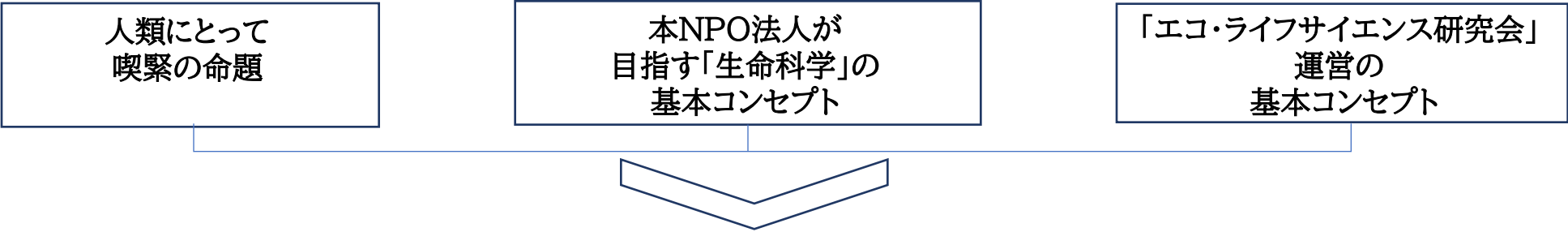


- ① 感染症の発症後の後進的研究から発症の潜在的有徴候の事前的察知へと研究姿勢を転換すること
- ② ウイトゲンシュタインの〔生きもの〕の生活世界に基盤を求める共同主観の世界観を創出すること



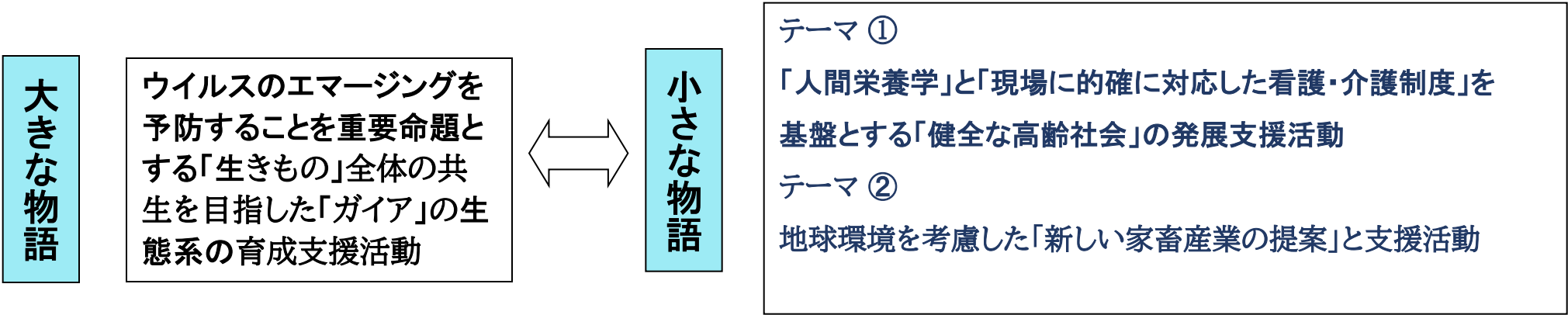
「ワクチン」だけに依存せず「健全な生命圏を創出すること」が生命科学の基本コンセプト

“研究・解明”の視点と社会的提案のシナリオ。



「研究テーマ」選定の基本コンセプト

- ①「大きな物語」は、半世紀から1世紀に及ぶテーマ。
- ②「大きな物語」と「小さな物語」がお互いに連携をとって着実に実績を上げて行くシステムに則った活動。



次世代に相応しい「生命科学」の育成・“研究成果”の適確な社会還元

目的・目標

- ◆ 次世代に相応しい【ワン・ヘルス – ワン・ワールド】の構築と育成のための、官・産・学・民からなるコンソーシアム形成と推進。
 - ① 「健全な「高齢者社会」の構築を目指した「生命科学」「法制度」の構築。
 - ② 「健全な畜産産業の」構築を目指して、「多機能牧場」の創設。
- ◆ 「生命科学」に関わる科学、法制度、国際情勢、国民意識等多領域の実態を踏まえて[大きな物語]の構築、実施可能な仕組みを作るなかで[小さな物語]を確実な実施。
- ◆ 活動成果の普及活動。

基本方針

- ◆ 新しい「生命科学」の視点から[ガイア(地球生命圏)]の健全な発展を目指す【[生きもの]全体の 繁栄基盤となる“生態学システム”】の構築と育成支援。
- ◆ 企画内容や活動成果を行政施策に反映させるための具体的な活動計画の策定とそれを可能とする体制 の構築と具体的な活動。
- ◆ 研究会の活動成果を社会に向けて広く普及させるための啓発普及推進活動。

活動・推進体制

- ◆ 研究会の活動が行政施策に具体的に反映できるように、国民への受容性を配慮し、国民が率先して社会に向けて活動出来る活動を重視する。
- ◆ 産・学・官・民のオピニオンリーダーが対話を通して、相互の共通認識に立った協力体制、コミュニケーション機能を活かす。
- ◆ 研究会の設立主旨と活動趣意に賛同し、「大きな物語」「小さな物語」の発展に寄与するアドバイザーボードを中心としたオピニオンリーダー、及び大学、公的研究機関の主要な構成メンバー、及び市民の参加を積極的に進める。

運営方法

- ◆ 参加メンバー選定基準は、異本的には行政を含む大学、関係公的機関、企業や市民で、本研究会の趣意を理解し、賛同者とする。
- ◆ 異分野の医学者、科学者等による意見交換や議論が要請される。そのため我が国の縦割り制度、専門性重視の価値観や組織特性等を超越した新しい仕組みを作っていく。
- ◆ 具体的には次の三つの分野に対して影響力を有するアドバイザーボード主体のオピニオンリーダーの合意の基で運営していく。
 - ① 医学・薬学・農学・栄養学・認知科学で代表される学問分野。
 - ② 農林水産省、厚生労働省、消費者庁で代表される行政機関。
 - ③ 自治体、市民団体、メディア等。

研究会、シンポジウム運営に関する基本的な考え方と具体的な運営方法

「研究会」運営の重要ポイント

- ◆ 基本的には、レギュラトリーサイエンス、トランスサイエンスに基づく「コンセンサス会議」とし、次の手順に従って活動する；
 - ①情報・知識の蓄積
 - ②課題抽出
 - ③対応策立案
 - ④実施
- ◆ 広角的（グローバルな）視点から、3名位の「企画運営委員会」を設置し、企画大綱案を作成する。
- ◆ それを下敷きにして、大きな物語と小さな物語（2つのテーマ）毎にタスクチームを編成し、具合的な企画書原案を作成する。
- ◆ トップ・ダウンではなく、参加者全体で企画し、運営して行くボトム・アップ重視の姿勢に徹し、参加者全員による熟議を通して問題点や対応策を明らかにして行く開かれた方法で運営する。

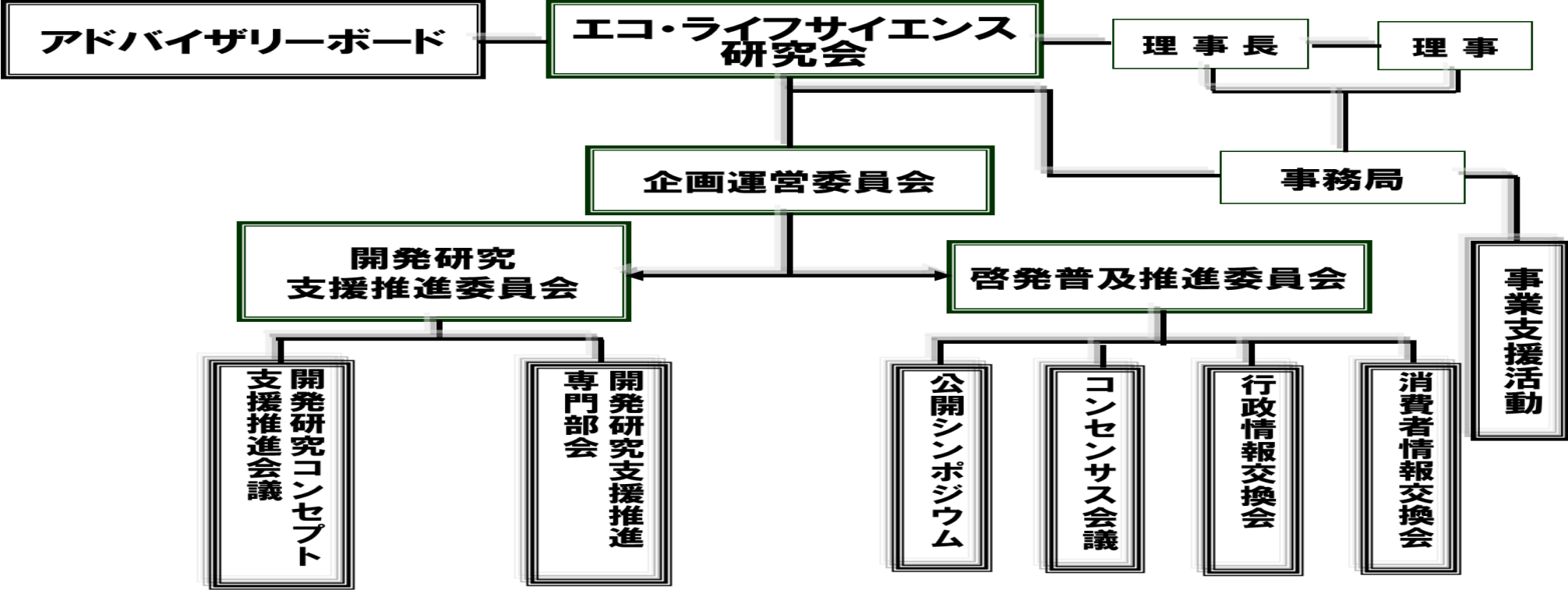
「研究会」のアプローチ方法

- Step1
行政施策・法制度、研究実態、関連する社会環境の注視すべき動向を抽出
- Step2
関係領域の変容要因は何か！
自然科学、地球環境、行政施策など多角的に把握
- step3
上記内容を課題の形で整理し、重点課題を設定
- Step4
重点課題の対応策を検討し、重点テーマを設定
- Step5
重点テーマの実施方法を検討し、具体的な企画書を作成して即実施
- 参加者支援活動
得られた成果を参加会員が単独で活用する仕組み作りの協力・支援

「研究会」の具体的な進め方

- ◆ 研究会開催毎にパネリストをお呼びして、講演者やパネリストと参加者との双方向の情報交換を重視したパネルディスカッションを行なった後、更なる情報交換と親睦を目的とした懇親会を内容を配慮して公開或いは非公開スタイルで実施して行く。
- ◆ 研究会終了後、事務局は研究会の内容を纏め、報告書として参加者にお届けする。
- ◆ 報告書の内容は「機密扱い」とし、その内容の活用方法については、参加者と協議した上で決める。
- ◆ 研究会の開催は原則として2ヶ月に1回とし、それ以外の開催については参加希望者の要望に応じて適宜開催する。
- ◆ 研究会運営に要する費用については、参加希望者と相談して決める。

研究会とアドバイザリーボードの組織・運営体制



研究会への参加は、公開シンポジウム以外は、研究会会員とし、
「NPO法人21世紀の食と健康文化会議」会員として次の契約事項を確認の上、締結する。

【本研究会の契約事項】

- 《期 間》 契約の有効期間は契約締結日より1年間
- 《費 用》 会員当たり〇〇円とし、本研究会入会時の支払
- 《機密事項》 本研究会の会員以外には機密扱いとなり、個々会員より開示された情報は公知のもの、及び会員企業の許可を得たものを除き機密を保持する。

8. 研究会の活動・運営フローの全体像

「大きな物語」

生きもの全体の共生を目指したガイアの構築と育成支援活動
「大きな物語」と「小さな物語」を互いに連携させて適宜アウトプットを出して行くシステムで運営

「小さな物語」

テーマ1
ウイルスによる感染症予防

テーマ2
健全な高齢者社会の構築に向けて

テーマ3
新しい家畜産業の提案」と支援活動

【スタートアップ期(2025～2026年)】

